

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市中央療育センター	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人 同愛会 ・代表者名 理事長 高山 和彦 ・住所 横浜市保土ヶ谷区上菅田町1749	評価者	障害計画課長
指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害計画課

2. 事業実績

利用実績	通園定員 100名 通園契約児数 347名(前年度契約児:345名) 入所定員 50名 29年度末 43名(前年度末42名) 短期入所定員 10名 29年度延べ利用数 2,532名(前年度 2,649名) 診療所利用児数 年間延べ12,854名(前年度延べ13,433名) リハビリ・検査実施数 年間延べ12,902名 放課後等デイサービス(法人提案事業)定員15名 29年度契約児童数65名(前年度 57名)		
収支実績	【収入】(通所+入所) ○給付費等 221,101千円 ○医療費等 212,360千円 ○指定管理委託料 560,122千円 ○その他 15,032千円 計 1,008,615 千円	【支出】(通所+入所) ○人件費 710,654千円 ○事務費 94,270千円 ○事業費 83,531千円 ○固定資産 2,720千円 ○繰入金 75,000千円 計 966,175千円	収支差額 42,440千円
サービス向上の取組	・通所に関しては、通常の通園療育に加え、利用者の特性に合わせた異年齢クラスでの支援、地域関係機関と交流を設ける等、多様な療育の提供を行った。また、クラスごとの保護者懇談会の開催に加え、通園部主任職員による懇談会も併せて開催し、保護者へのフォロー態勢を強化した。 ・入所に関しては、集団活動における支援だけでなく、利用者の気持ちに寄り添った支援や学校の友達関係にも配慮した取り組みを行った。また、短期入所、緊急一時保護委託事業については、利用者の保護にとどまらず、関係機関と連携した支援を行った。 ・平成27年度から法人の提案事業として開始した放課後等デイサービスは、重心児の地域生活を継続して支援している。 ・入所児童の特別支援学校等への送迎、JR武蔵新城駅へのバス輸送が必要に応じ行われている。		

3. 評価 (評価段階:5~1,標準:3,加点割合:5→100%,4→80%,3→60%,2→40%,1→0%)

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を着実に実施しているか	10	4	8
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	4	8
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
(評価の理由) ・療育センターの特徴である複数の職種が連携したチームで、利用者個々の特性に生かした支援、モニタリングの実施に取り組み、着実な成長が図れるよう療育を実施した。 ・併行通園児や退園児を対象とした地域の保育園、幼稚園への訪問活動を積極的に行い、地域での生活を重視した支援を行った。 ・外来訓練では、個別訓練、検査、評価と並行し、保育園や学校への訪問支援や、保護者学習会の開催を行った。 ・訪問療育、訪問診療を専門職員のチームで行い、本人と家族と共に支援するという観点から重心児の地域生活を継続的に支援した。					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3	
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
(評価の理由) ・支出については、適切な執行により予算内で執行されている。 ・利用料や給付費等の請求は、適切に実施されている。 ・金銭管理や会計手続が適切に実施されている。					
サービス	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	3	6
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
利用者の意見・要	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	4	4	

利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか

0

1

2

体制	(評価の理由) <ul style="list-style-type: none"> ・第1, 3土曜日の開所は継続して行っている。また、リハビリ診察の日数を増やし、装具診察等、診療の充実を図った。 ・重心児の訪問診療、訪問リハビリを専門職員でチームで行い、重心児の地域生活を継続的に支援した。 ・通園では、意見箱の設置、小規模(クラス単位)でのクラス懇談会と主任職員による懇談会を合わせて開催することで、より細やかに保護者の意見・要望に対応した。 ・地域の幼稚園・保育園等関係機関への巡回、関係機関からの相談対応する訪問担当者2名を配置し、専門職を連携し、積極的な訪問活動を行った。 ・入所では、「こども会議」の継続開催し、第三者委員の導入と合わせ入所児童の率直な意見を聞き、内容を職員から児童にフィードバックした。 				
	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
組織管理体制	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	3	3
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3
(評価の理由) <ul style="list-style-type: none"> ・支援上の利用者からの要望や施設建物の修繕に関することまで必要に応じ所管課と連携をはかり、解決に向けて迅速に取り組んでいる。 ・防災マニュアルに従い、必要な周知、点検を適切に行っている。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	3	3
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
	(評価の理由) <ul style="list-style-type: none"> ・施設管理については、専任のスタッフが点検・補修等を行い、必要に応じ所管課と連携をとり迅速に対応している。 ・清掃・警備業務については適切に行われている。 				

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準::C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→50点以上60点未満,E→50点未満

A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<ul style="list-style-type: none"> ・通所部門については、幼稚園・保育園との併行利用の児童の増加を踏まえ、地域の幼稚園・保育園との連携強化を目的とした訪問活動を訪問担当職員が中心となり重点的に行った。療育センター相談利用者数が年々増加している現状に対し、療育センター通園による支援だけでなく、地域の関係機関との連携による多様な支援体制の確立を課題とし、取り組んでいる。 ・入所部門については退所後の地域移行を見据え、様々な生活体験ができるように支援している。また、集団の活動だけでなく、個別の活動も重視し児童の気持ちに寄り添う支援に努めている。、短期入所利用中の児童についても保護者のレスパイトや保護に留まらず、計画に基づいた支援を行った。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止、災害等に備えた施設の安全管理に努めること。 ・相談利用者数が年々増加している現状に対し、引き続き、子どもの最善の利益を考慮し地域関係機関と連携した多様な支援体制の確立を課題とし取り組むこと。
--